

分娩後胎盤停滞に対する 新しい治療法の試み

静内診療所 前田昌也

例年になく厳しい気象状況の中、今年も出産シーズンに入っています。分娩後トラブルの一つである胎盤（後産）停滞に対し、昨年から試みている対処法を紹介します。

分娩から3時間経過しても後産が除去できていなければ何らかの処置をする必要があります。従来、子宮収縮作用のあるオキシトシンの投与や用手などにより除去しますが、2015年にオランダの獣医師から臍帯から胎盤に水道水を注入して除去する方法が発表されました。胎盤が膨らんでヒダが伸びることにより子宮との分離が容易になるようです。2016年には十勝の先生が2頭の重種馬に本法を用いて良好な成績を得たとも報告しています。両報告においてサラブレッドに本法を適用した実績がなく、私は少しアレンジして実施しています。

患馬の全身状態に胎盤停滞以外の異常がないことを確認し、鎮静剤と少量のオキシトシンを投与したら、臍帯にカテーテルを挿入してポンプでお湯を注入します。これまでの感覚的には35～40リットル（大きなバケツ2杯）以上は注入したほうがよさそうです。「こんなにいれて大丈夫？」と不安になる水量です。注入したら子宮に手を入れて、子宮に滲み出た水の中に浮遊する胎盤を触ることが出来れば、陰部の方へと、引っばるのではなく、あくまでたぐり寄せます。水で重くなった胎盤は自重で除去されます。子宮の水も同時に大半が除去されます。子



宮に残った水を除去させるため、再度少量のオキシトシン投与します。昨～今シーズンで8頭処置しましたが10～15分で除去され、経過は良好です。

この方法で注意するべくは前述のとおり、母馬に他の異常が起きていないかどうかを確認することです。子宮が穿孔していれば水道水は腹腔へ流入してしまいます。血管から大きく出血している状態で子宮を膨らますと致死性の病態を招きます。

どんな方法で治療するにせよ、胎盤停滞はかかりつけの獣医師によく診察してもらわなければなりません。6時間以上経過するとオキシトシンの反応が低下するとの報告もあり、早い対処が必要です。

分娩後の基本的処置として、胎盤の重みを臍帯に伝えるように縛ることが重要です。意外に正しくできていないケースに遭遇します。

最後にオリジナルの方法を紹介しているインターネット動画のアドレスを記載しておきます。

<https://www.youtube.com/watch?v=mfjR-MTg6ng>